

## 2. 火山の概況

(平成 16年 2月 12日 ~ 平成 16年 2月 18日)

吾妻山では地震がやや多い状態が続いた。

浅間山では地震がやや多い状態が続いており、  
火山活動度レベルは2であった。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

福徳岡ノ場では変色水が確認された。

阿蘇山では1月14日の規模の大きい土砂噴出以降レベルが3に上昇したが、その後1か月間、活動に活発化はみられず2月13日にレベルが2に低下した。

口永良部島では地震と微動がやや多く発生した。

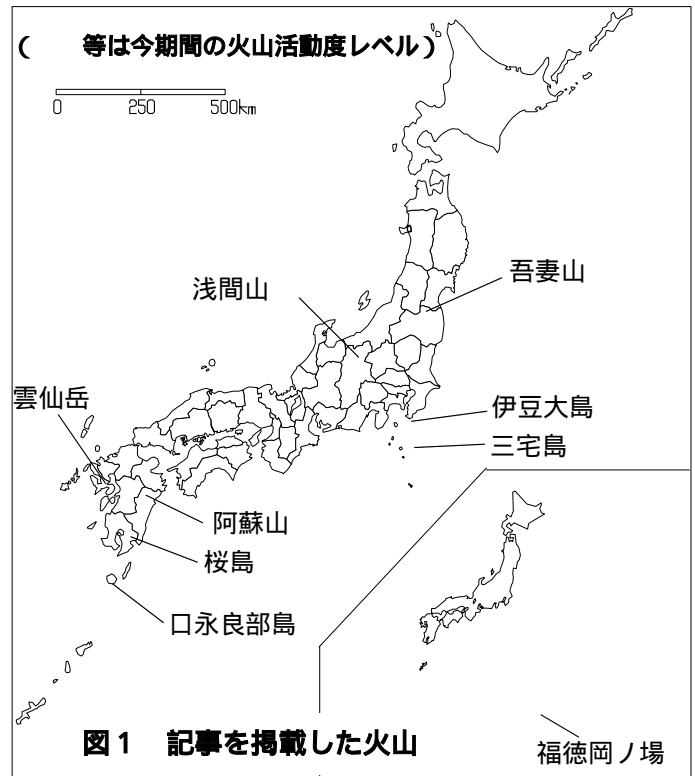


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

| 号 | 対象期間       | 浅間山 | 伊豆大島 | 阿蘇山 | 雲仙岳 | 桜島  | 吾妻山 | 箱根山 | 三宅島 | 八丈島 | 福徳岡ノ場 | 霧島山 | 口永良部島 | 諏訪之瀬島 |
|---|------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-------|-------|
|   |            | レベル | 記号   | レベル | 記号  | レベル | 記号  | レベル | 記号  | レベル | 記号    | レベル | 記号    | レベル   |
| 8 | 2/12- 2/18 |     |      |     |     |     |     |     |     |     |       |     |       |       |
| 7 | 2/ 5- 2/11 |     |      |     |     |     |     |     |     |     |       |     |       |       |
| 6 | 1/29- 2/ 4 |     |      |     |     |     |     |     |     |     |       |     |       |       |
| 5 | 1/22- 1/28 |     |      |     |     |     |     |     |     |     |       |     |       |       |
| 4 | 1/15- 1/21 |     |      |     |     |     |     |     |     |     |       |     |       |       |

**注1 記号の意味**

- : 噴火した火山
- : 観測データ等に变化があった火山
- : 前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
- : その他記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字: 火山活動度レベル

**注2**

本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

### 吾妻山 [地震]

いっさいきょうざん おおあな

一切経山（大穴火口付近）の地下、深さ数 km を震源とする微小な地震は、昨年 12 月以降増加傾向にあったが、1月中旬以降さらに多くなった。1月24日以降は減少傾向がみられるものの、依然やや多い状態が続いている（図2）。

なお、この地震活動に関係して、噴気活動や地殻変動には特に変化はない。

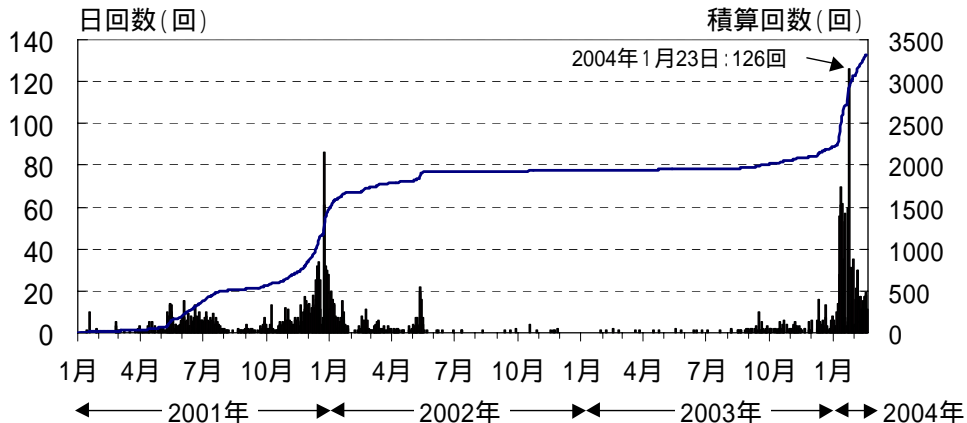


図2 吾妻山 地震の日回数（折れ線は積算回数）（2001年1月1日～2004年2月18日）

## 浅間山 [地震・微動] レベル2 (やや活発な火山活動)

昨年6月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間も1日あたり57～94回とやや多く観測された。

振幅の小さい微動は、2月11日、12日に各1回、合計2回観測された(前期間も2回)。

## 伊豆大島 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動は静穏で、噴煙は確認されなかった。また、地殻変動等、その他の観測データにも異常な変化はなかった。

## 三宅島 [噴煙・火山ガス・地震]

噴煙活動は引き続き活発で、白色の噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の高さの最高は火口縁上1,000mであった。

二酸化硫黄の放出量は、2月17日に行った観測<sup>1)</sup>では日量3,800～6,200トンと、長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった(図3)。

振幅の小さいやや低周波の地震の回数は、1日あたり6～26回と次第に減ってきている。

GPSによる地殻変動観測では、昨年6月頃から再び三宅島の収縮傾向を示している。

1) 東京消防庁の協力による

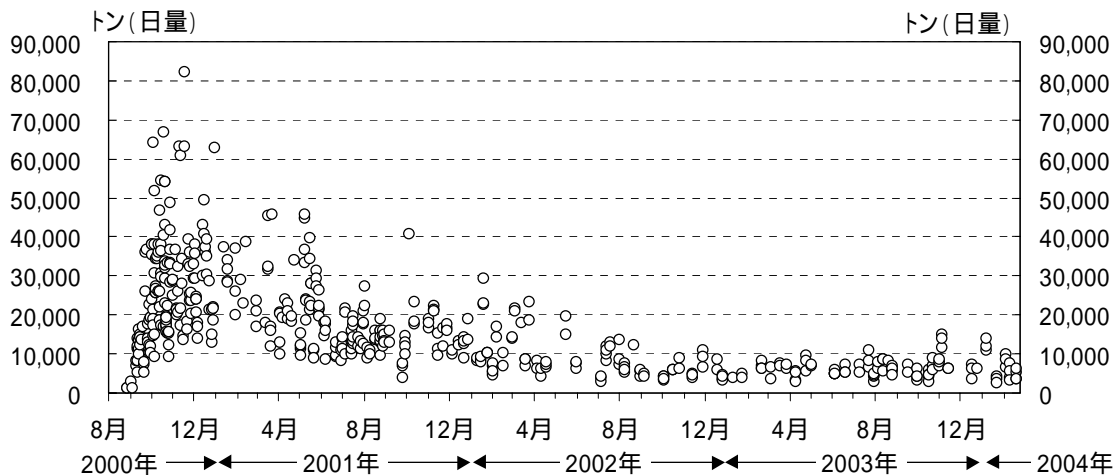


図3 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移(2000年8月26日～2004年2月17日)

## 福徳岡ノ場 [変色水]

2月16日12時45分～13時10分に海上保安庁第三管区海上保安本部が行った上空からの調査によると、福徳岡ノ場付近の海面に、幅50～200mで、南方向に約500m広がる、薄い黄緑色の変色水が確認された。軽石等の浮遊物等はなかった。変色水の確認は1月26日以来である。

## 阿蘇山 [熱・微動・地震] レベル3 (小規模噴火の可能性) レベル2 (やや活発な火山活動)

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発で、孤立型微動が多い状態で推移した。

中岳第一火口の状況は、2月16日、18日に阿蘇山測候所が実施した観測によると、湯だまり中央部と南西側の2か所では高さ約5mの土砂噴出が発生しており、噴湯現象も観測された。湯だまりの色は灰色で、湯量は約4割であった。湯だまりの表面温度は79(前期間は73)、南側の火口壁の温度は400(前期間は326)と引き続き高温であった。

孤立型微動が1,471回（前期間は1,507回）、B型地震も44回（前期間は61回）と依然多い状態で、浅部の火山活動がやや活発であった。

それ以外は、A型地震の発生は少なく、噴煙活動やGPS等による地殻変動の観測データには特に異常な変化はなかった。

阿蘇山の火山活動度レベルは、1月14日に規模の大きい土砂噴出が発生して以降、レベル3（小規模噴火の可能性）に上昇していたが、その後のおよそ1か月間、規模の大きい土砂噴出をはじめ、火山活動がより活発化したことを示す現象は発生しておらず、中岳第一火口の火山活動は1月14日以前の状態に戻ったと判断され、レベル2（やや活発な火山活動）に低下した。

### 雲仙岳 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも異常な変化はなかった。

### 桜島 レベル2（比較的静穏な噴火活動）

期間中、噴火はなかった（最後に噴火したのは1月12日）。噴煙の高さの最高は火口縁上500m（乳白色）で特に変化はなかった。鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）では、今年に入ってから降灰は観測されていない。

### 口永良部島 [地震・微動]

微小な地震が2月2日に70回と多発し、前期間は日回数が10回未満、合計は46回と少なくなったが、今期間は14日～17日に日回数11～35回とやや増加し、合計は100回となった。

微動はやや多い状態で、今期間は11回（前期間は25回）であった（以上図4）。

上屋久町役場口永良部島出張所によると、これらの地震や微動の活動に関して、しんだけ新岳やふるだけ古岳の噴気活動などに異常な変化は見られていない。

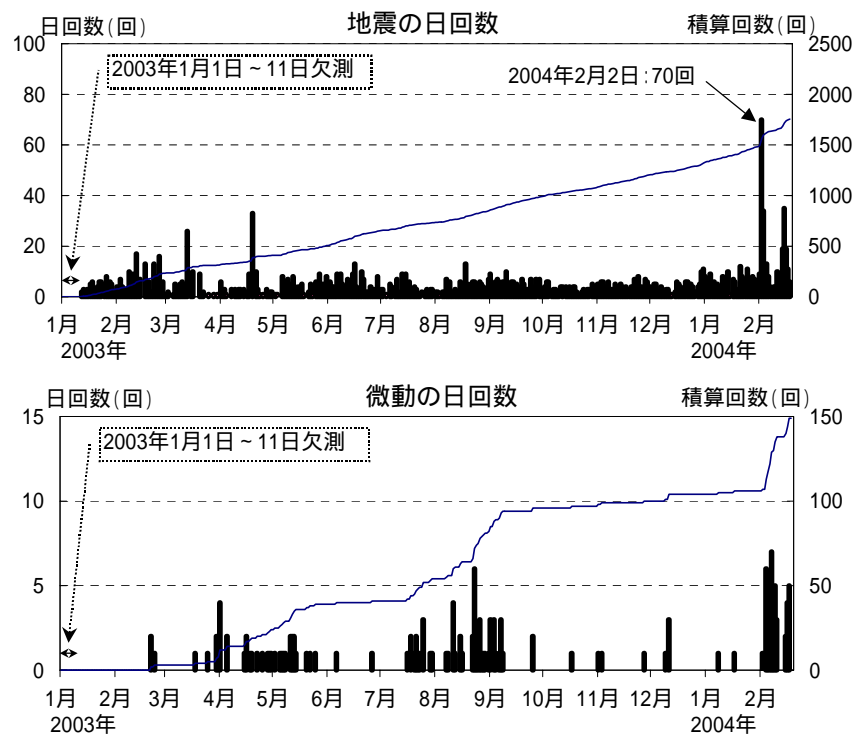


図4 口永良部島 地震及び微動の日回数（折れ線は積算回数）  
（2003年1月1日～2004年2月18日）

**表2 火山情報発表状況**

| 火山名   | 情報の種類及び号数              | 発表日時      | 概要   |
|-------|------------------------|-----------|--|
| 三宅島   | 火山観測情報第82号<br>(1日2回発表) | 12日 09:30 | 活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。     |
|       | 火山観測情報第95号             | 18日 16:30 |  |
| 阿蘇山   | 火山観測情報第14号             | 13日 15:00 | 火山活動が引き続きやや活発(湯だまりから規模の小さい土砂噴出が継続、孤立型微動が多い状態)。2月13日にレベルが3から2に低下。 |
|       | 火山観測情報第15号             | 16日 14:50 |  |
| 霧島山   | 火山観測情報第12号             | 13日 15:00 | 御鉢の火山活動は収まっている。  |
| 口永良部島 | 火山観測情報第8号              | 13日 15:00 | 地震・微動が減少。  |
|       | 火山観測情報第9号              | 16日 10:15 | 地震が増加。   |